

★第 18 回非同盟諸国首脳会議でのアリエフ大統領の演説

10 月 26～27 日、バクーで開かれた同会議で議長国アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領は、議長就任にあたって次のように演説した。

国家元首、政府代表、来賓、ご列席の皆様、
第 18 回非同盟運動サミットにご参加の皆様にご心から「ようこそ！」とご挨拶を申し上げます。

2016～2019 年、非同盟運動の議長国を務めたベネズエラ共和国に感謝申し上げます。

非同盟運動は普遍的な価値を促進し、すべての国の主権、独立、領土保全へのコミットメント実現に貢献しています。120 カ国を擁する非同盟運動は、世界各国を代表する国連総会に次ぐ最大の政治機関であります。

アゼルバイジャンは 2011 年に非同盟運動への加盟を認められました。参加して日は浅いですが、わが国は国際法の規範と原則を断固として擁護することにより、大きな威信を獲得することができました。

2016 年に開催された第 17 回サミットにおいて、次回サミットをバクーで開催し、2019 年～2022 年の議長国にアゼルバイジャンを指名することが全会一致で決定されました。これは我が国に対する尊敬、信任と信頼の証左であり、世界の多くの国が連帯する非同盟運動の一翼を担おうとする我が国の政策に対する支援と考えており、この決定に重ねて感謝の意を表したいと思っております。

非同盟運動議長国として、アゼルバイジャンは歴史的なバンドン原則に基づいて優先順位を定め、活動を構築してゆく所存です。主権の尊重、すべての国の領土保全、内政不干涉、相互利益の保護、協力の促進などの概念を含むバンドンの原則は、アゼルバイジャンの外交政策の基本原則と一致しています。

国際法の規範と原則を普遍的に尊重する努力を強化しなければなりません。この文脈において、国連内部の諸改革が大いに必要であります。暴力による国境変更、武力行使による領土権の侵害や内政干渉は容認できません。

アゼルバイジャンは非同盟運動の議長として、他の機関との対話を確立し発展

させ、協力の地理的な拡大に努めます。非同盟運動のほとんどの国は発展途上国であり、運動の枠組みの中で経済協力を発展させることが非常に重要です。この意味で、先月アゼルバイジャンが 77 カ国グループ（G77）に加盟したことにより、社会経済の分野での国際的な取り組みを強化することが可能になりました。特に重要なことは、加盟国の利益のために国連に於いて共同して主張することです。

特に注意を払う必要があるのは、最も開発が遅れている内陸に位置する小国が直面する脅威です。2005 年以来、アゼルバイジャンは 90 カ国以上に人道支援と技術支援を提供してきました。アゼルバイジャン国際開発支援庁は、貧困緩和、科学研究、文化、ヘルスケア、情報技術、水資源の合理的利用、助成プログラム等々の分野で各国のプロジェクトを進めています。

2018 年から、アゼルバイジャンは非同盟運動加盟国に我が国の高等教育機関での研究のための全額奨学金制度を提供しています。現在 31 の参加国から 37 人の若者がこのプログラムの恩恵を受けています。

アゼルバイジャンは青少年政策を優先分野としています。アゼルバイジャンの若者は祖国への愛着と愛国心に則った伝統的価値観に基づく国民精神の中で育てられています。これが非同盟運動の歴史の中で初めて青少年サミット主催のイニシアチブを取った理由です。今回のサミットの前夜に開催されたユースサミットに、40 カ国から若者が参加しました。

ご列席の皆様、ご来賓の皆様！

アゼルバイジャンは独立からわずか 28 年しか経っていません。一週間前の 10 月 18 日、私たちは独立回復の日を祝いました。昔からアゼルバイジャンの土地であるナゴルノ・カラバフとそれに隣接する 7 つの地区は、国際的に認識された我が国の領土の約 20%に相当しますが、25 年以上にわたってアルメニアの占領下にあります。アルメニアはアゼルバイジャン人に対して民族浄化政策を実施してきました。その結果、100 万人以上のアゼルバイジャン人が難民・要退去民の立場におかれまして。当時のアゼルバイジャンの人口は 800 万人で、我が国は一人当たり難民・要退去民の数において世界有数の国の 1 つでした。アルメニアはアゼルバイジャン人に対してコジャリ虐殺を行いました。コジャリ虐殺では 106 人の女性と 63 人の子供を含む 613 人の無実の人々が、アゼルバイジャン人であるというだけの理由で残酷に殺害され、行方不明者は千人を超え

ました。

コジャリ虐殺は世界 10 か国以上で認知されています。1993 年に国連安全保障理事会が採択した 4 つの決議の中で、アゼルバイジャンの領土からのアルメニア軍の完全かつ無条件撤退が求められています。残念ながらこの決議は実行されていません。安全保障理事会の決議は数日以内に実行されることもあります。アゼルバイジャンが直面する紛争のように、26 年たっても紙切れのままということもあるのです。

このようなダブルスタンダードは終わるべきです。イスラム協力機構、トルコ語圏国家協力会議、欧州議会、欧州評議会議員会議、欧州安全保障協力機構 (OSCE)、など権威ある組織は、アゼルバイジャン領土の完全な回復を要求する決議や法令を発しています。この機会に参加各国の皆様には感謝の意を表したいと思います。それは非同盟運動がこれまで批准した文書の中で、この紛争は国連安全保障理事会の決議に従い且つアゼルバイジャンの領土保全の枠組みの中で解決されるべきと表明されてきたことで、この支援に感謝します。

アルメニアは、アゼルバイジャンの被占領地域にある全ての歴史的建造物、モスク、墓地を破壊し、博物館や私たちの物質的・精神的な価値を奪取しました。占領地内のアゼルバイジャンの痕跡を意図的に消去するべく、全ての地名をアルメニア語に書き換えています。アルメニアは国際人道法に反して占領地域に於いて違法な再定住政策も進め、違法な経済活動を行っています。

2016 年 4 月、アルメニアによる軍事的挑発により、子供を含む 6 人のアゼルバイジャン人が殺害され、26 人が負傷し、何百の家屋が破壊されました。カラバフは元々アゼルバイジャンの土地であり、紛争はアゼルバイジャンの主権と領土保全の枠組みの中でのみ解決されるべきです。

アゼルバイジャンは独自の外交政策を進めています。国益と正義に基づく政策は多くの友人を作るのに役立ちました。その好例は 2011 年にアゼルバイジャンが 155 カ国の賛成によって国連安全保障理事会の非常任理事国に選出されたことです。アゼルバイジャンは安全保障理事会のメンバーとして、国際的な平和と安全の強化、正義の確保に貢献し、国際的な政治プロセスへの積極的な参加者となりました。

アゼルバイジャンは、国連安全保障理事会の付託に基づいて設立された国際平

和維持活動にも貢献しています。わが国はロシア - NATO、ロシア - 米国の軍事高官会議のホスト役を定期的に務めてきました。世界には約 200 の国があります。その中でアゼルバイジャンがこのような会議の場として選ばれるのは、我が国の独立した外交政策に対する敬意の表われであります。

ご来賓の皆様、独立してから数年はアゼルバイジャンにとって苦難の日々でした。腐敗し臆病で無能だったアゼルバイジャン人民戦線による統治の時代、この国は大きな不幸にさらされました。アゼルバイジャンに内戦が起きました。1993 年にアゼルバイジャンの人々の要請に応じて権力の座に就いたヘイダル・アリエフ大統領の登場だけが、この国をさらなる悲劇から救ったのです。アゼルバイジャンは、民主的で持続可能な開発の道に着手しました。安定と平穏がこの国にもたらされました。

アゼルバイジャンは、民主主義、人権、自由などの価値にコミットしています。これには深い歴史的なルーツがあります。100 年前、イスラム東部で初の民主共和国がアゼルバイジャンに建国され、女性にも投票権が与えられたことを私たちは誇りに思っています。この点で、私たちは殆どの西洋諸国よりも先を行っていたのです。民主的な開発はアゼルバイジャンの意識的な選択です。アゼルバイジャンでは、全ての基本的な人権、自由、法の支配、報道の自由が保証されています。

過去 15 年間にアゼルバイジャンの経済は急速に発展し、国内総生産は 3 倍以上になりました。アゼルバイジャンでは 2,700 億ドル以上の投資が行われ、その半分は外国人によるものでした。アゼルバイジャンの対外債務は国内総生産のわずか 17 パーセントです。この指標によれば世界第 9 位です。アゼルバイジャンの貧困率は 5% です。本年だけでも最低賃金と社会給付は倍増し、最低年金は 70 パーセント増加しました。68,000 世帯、280,000 人を超える人々が社会保障の対象となっています。各家族は毎月約 140 ドル相当の社会扶助を受けています。アゼルバイジャンでは、過去 15 年間に 3,200 以上の学校と 640 以上の病院・医療施設が建設・改修されました。アゼルバイジャンの識字率はほぼ 100% です。30 万人以上の国内避難民に無料の家とアパートが提供されています。国内避難民 (IDP) の家族には毎月平均 180 ドル相当が支給されています。

アゼルバイジャンの成功は、国際社会の評価を受けています。世界銀行の報告書 2020 年版に拠れば、アゼルバイジャンは世界で最も改革が進んだ国の上位 20 に入っています。ダボス世界経済フォーラムの報告書では、アゼルバイジャン

ンは政府の長期的戦略で 10 位、指導部の改革へのコミットメントで 5 位にランクされました。

アゼルバイジャンは宇宙にも進出しています。現在衛星を 3 基持っています。2 基が通信衛星、1 基は地球表面調査衛星です。人口の 80% がインターネットを使っています。

アゼルバイジャンにはエネルギー安全保障があります。ダボス世界経済フォーラムの報告を再度参照すると、アゼルバイジャンは資源アクセスで世界 2 位にランクされています。同時にアゼルバイジャンは多くの国にエネルギーを供給しています。アジアとヨーロッパ大陸の架け橋としての役割を担い、海洋へのアクセスを持たない国として、多くの地域間輸送プロジェクトに着手し実現しました。東 - 西と南 - 北の輸送回廊プロジェクトに積極的に参加し、現在は、南 - 西、北 - 西の重要なプロジェクトに取り組んでいます。このようにアゼルバイジャンは信頼できる通過国として、多国間国際協力に貴重な貢献をしています。

気候変動は世界的な脅威です。アゼルバイジャンは、その結果と闘うための国際的な努力を支持しています。アゼルバイジャンはパリ協定に批准し、2030 年までに温室効果ガスの排出量を 1990 年の基準年と比較して 20% 削減するという目標を設定しました。アゼルバイジャンでは環境に優しいガスと水力だけで発電しています。

アゼルバイジャンには寛容と多文化主義の豊かな伝統があります。多文化主義はアゼルバイジャンの人々の生活様式です。11 年前にイスラム協力機構と欧州評議会の加盟国が参加して開始したバクー・プロセス・イニシアチブも、国連によってサポートされています。グテーレス国連事務総長は 2008 年からバクー・プロセスを文化対話促進の最前線と位置づけました。「バクー・プロセス」の論理的継続のために設置され、我が国で 2 年おきに開催される異文化対話に関する世界フォーラムは、国連総会に於いて異文化間の対話促進の主要なプラットフォームとして認知されました。

来賓の皆さん、サミットの枠組みの中で行われるこれからの議論は、非同盟運動の議題に関する目標の実現に役立つと確信しています。運動の議長国として、アゼルバイジャンは加盟国と共同で優先事項を実施するために、更に努力を続けます。

サミットが成功することを願い、もう一度「ようこそ！」と申し上げます。
ご清聴ありがとうございました。